



京都切絵歳時記



みや
京のアジェンダ21フォーラム 事務局通信
月刊あじえんだは当フォーラムの活動紹介を中心とした
京都発、環境関係の情報発信紙です

事務所 〒612-0031 京都市伏見区
深草池ノ内町13
京エコロジーセンター2F
活動支援室内
TEL : 075-647-3535 FAX : 075-647-3536
E-mail : ma21f@mbox.kyoto-inet.or.jp

事務局 〒604-8101 京都市中京区柳馬場通
御池下ル柳八幡町65
京都朝日ビル4F
京都市総合企画局地球温暖化対策室内
TEL : 075-211-9281 FAX : 075-211-9286

京都市青少年
科学センター



体験型環境学習設備「自然にやさしいクリーンエネルギー」お披露目

8月4日(土)、京都市青少年科学センターにおいて「地球温暖化防止京都会議(COP3)開催10周年記念イベント そうなんだ!地球温暖化 ジュニア・アクション」が開催された後、体験型環境学習設備「自然にやさしいクリーンエネルギー」の完成お披露目が行われました。同設備は7月にお伝えした通り、当フォーラムから寄贈したものです。

同イベントに参加した150名の親子がこのおひろめ式に出席し、寄贈品の説明を受けました。内藤フォー

ラム代表は「皆さんのお父さん・お母さんの時代にはまだ石油を使っても大丈夫かも知れませんが、皆さんが大人になるときは、今のままではまず間違いなく地球が大変なことになります。そうならないよう、皆さんには、この施設で石油を使わずにエネルギーを起こす方法を実際に見てもらっただけでなく、電球1個を点すだけの電気が、自然や人の力でこれを起こすには、とても大変であることを実際に感じるにより、エネルギーを使う大切さを学んでくださるよう期待します」と子どもたちに語りかけました。

体験型環境学習設備

「自然にやさしいクリーンエネルギー」

①風力発電 ②太陽光発電 ③水力発電でクリーンな電気エネルギーをつくれることを目に見えるかたちで示すとともに、④人力発電でこれらに相当する電力を起こすことがいかに大変で省エネルギーが大切なのかを子供たちに体感してもらえらる体験型の学習設備です。

地球温暖化防止京都会議(COP3)開催10周年記念イベント
そうなんだ!地球温暖化 ジュニア・アクション



左写真: 子どもたちに語りかける内藤代表
中央写真: イベントに参加した全員で学習設備バックに記念撮影
右写真: 水力発電装置



KES環境機構が「京都創造者大賞2007」〈環境・景観部門〉を受賞

今年4月にフォーラムから独立したNPO法人KES環境機構が、この度、栄えある「京都創造者大賞2007」〈環境・景観部門〉を受賞しました。この賞は、京都のイメージアップや都市格の向上に著しく貢献している個人、法人、団体およびその商品や技術、サービス等を顕彰し、その功績をたたえることを目的にしており、賞顕彰委員会と京都府、京都市、京都商工会議所の主催により実施されています。

受賞対象は「KES・環境マネジメントシステム・スタンダードの普及、啓発」です。京都議定書が締結された環境先進都市・京都が創設した環境管理審査登録制度として世界に誇れるものであり、この基準が京都だけでなく日本各地に広がりつつある功績が受賞理

由です。〈環境・景観部門〉として、建築物等の事物でなく、環境マネジメントシステムという制度が受賞することは画期的であり、KESの取組に対する評価の大きさが伺われます。

来る9月28日(金)に行われる授賞式で、講評として、KES取り組み約300社の省エネルギー活動により年間5110トン(1社平均17トン/年)ものCO2排出削減の実績があり、本事業の今後一層の発展を通じて、企業や人々の環境意識がさらに高まることを期待する旨が発表される予定です。

■京都創造者大賞ホームページ

<http://www.kyo.or.jp/brand/taisyo/>

■KES環境機構ホームページ

<http://www.keskyoto.org/>



環境にやさしいお祭りの普及を目指しています

○えこまつりWG - 環境にやさしいお祭り・イベントの普及を目指します。

えこまつりWGは、その名前のとおり、環境にやさしいお祭りや各種イベントの実現と普及

を目指して活動しています。

お祭りなどにおける大きな環境負荷といえば、皆さんも思いつかれると思いますが、飲食に用いた紙コップや紙皿などの“使い捨ての食器”が、イベントが終わった後に大量のゴミになります。そこで、えこまつりWGでは、この使い捨ての食器の削減のために「リユース食器」（写真）の導入・普及を中心に活動してきました。

○進む「リユース食器」の導入 - 2006年には市内の約100件のお祭り・イベントで「リユース食器」が使われました！

えこまつりWGでは、2003年度からコップ・皿・丼・箸などの各種「リユース食器」の貸出を始めました。最初は実験的な取組としてスタートしましたが、次第に口コミなどにより、貸出の希望が増加してきました。そこで、2005年の4月から、WGの一員であるNPO法人地域環境デザイン研究所ecotoneが本格的な事業として貸出を行うようになりました。

2006年の1年間には、京都市内で開催された約100件もお祭りやイベントに「リユース食器」の貸出が行われた結果、50万個におよぶ使い捨て食器の使用をなくしたものと推計され、ゴミの削減によるお祭り・イベントの環境負荷の軽減に大きな効果を上げました。

◆リユース食器が導入されたお祭り・イベント

(対象：京都市内で2006年1月～12月に開催されたもの)

○食器洗浄機を使用し、800食以上提供したお祭り・イベント：14件

○リユース食器の貸出のみ行ったお祭り・イベント：82件

(NPO法人地域環境デザイン研究所ecotone提供)

リユース食器貸出希望の方は下記連絡先まで
NPO法人地域環境デザイン研究所ecotone
TEL: 075-231-4356 FAX: 075-256-8054
E-mail: info@ecotone.jp

○さらに普及中 - 2007年度は各区の「ふれあいまつり」がリユース食器を導入

えこまつりWGでは、京都市の循環型社会推進課と、京都市民に身近なお祭り・イベントにリユース食器を普及させてしていくことを目指して意見交換を進めてきました。

その一環として、まずは市民のみなさんにリユース食器を導入したお祭り・イベントを体験してもらうため、各区で毎年開催している「ふれあいまつり」で導入することになりました。京都市の2007年度の区民提

案型パートナーシップ事業「有料指定袋制の実施に伴う財源活用事業」を活用して、6区役所・支所の「ふれあいまつり」で導入決定しており、さらに3区役所・支所で検討中です。

えこまつりWGでは、これら「ふれあいまつり」をモデルにして、近い将来にも、各学校区、自治会単位で開催される夏祭り、地蔵盆等でリユース食器をはじめとする環境に配慮した催しが拡がることを期待しています。

◆リユース食器を導入する「ふれあいまつり」

○北区民春まつり ～ふれあいまつり2007～
(6月3日開催)

○東山区民ふれあいひろば (6月3日開催)

○深草ふれあいプラザ (10月21日開催予定)

○下京区ふれ愛ひろば (11月11日開催予定)

○ふれあい“やましな”2007区民まつり
(11月23日開催予定)

○左京区民ふれあいまつり2007

(参院選による延期により日程未定)

○えこまつり普及をあなたの手で！ - 「お祭り調査シート」ご記入のご協力を！

えこまつりWGでは、お祭り・イベントの環境負荷の軽減のためには、リユース食器の導入だけでなく、自然エネルギーや公共交通機関の利用など、総合的な取組が重要だと考えています。

そこで、WGでは今年度、京都で開催されているお祭り・イベントについて「お祭り調査シート」を用いた総合的な実態調査を行うことにしました。

フォーラム会員の皆様には、お近くで開催される、秋祭りや運動会、ふれあいまつり、また会社などの親睦イベント、レクリエーション大会などに参加された折りに、今月号の『月刊あじえんだ』に同封している「お祭り調査シート」にご記入いただきますよう、よろしくお願ひします。もちろん、主催者の方からの情報提供も大歓迎です。「お祭り調査シート」は、11月30日の締切までにフォーラム事務局（連絡先：1ページ右肩）までお寄せください



「リユース食器」のコップ（意味：繰り返し使う）



びっくり！エコ100選に「市バス便利帳」を出展

8月8日から13日にかけて、高島屋京都店1階「ゆうとりむ」&7階「グランドホール」にて、『びっくり！エコ100選』が行われました。100のパネル&ブースにて、環境問題とその取組を一般向けに解説展示しました。

地球温暖化に関する説明パネルから始まって、国際的な取組や国内の取組、それから企業ごとの取組を解説したブースが並びました。

夏休みという時期もあって、会場には多くの子どもたちが訪れ、企業ブースで様々な体験に触れ、ふざけあって楽しそうな声をあげていました。

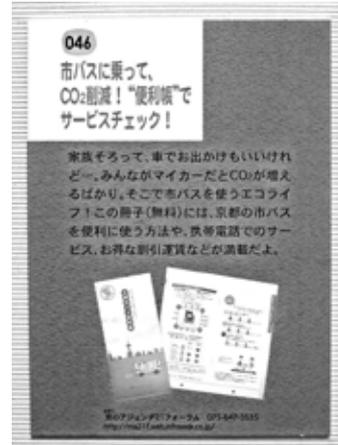
京のアジェンダ21フォーラムからは、「市バス便利帳」のパネル展示と配布を行いました。「市バス便利帳」は京都市バスのお得な利用の仕方を解説し、公共交通の利用をうながすパンフレットです。現在も当フォーラム事務所にて無料で配布しております。ぜひ一度ご覧ください。



高島屋1階エントランス部の展示
ANAの制服リサイクルやペロタクシー



子供たちで盛況の
人力発電実験装置



当フォーラム
市バス便利帳の展示



助成金案内 環境取組を対象とした助成金情報を紹介します

「平成19年度CDM/JI実施支援事業」の公募開始

- 実施主体：
独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
(略称：NEDO技術開発機構)
- 事業名：
CDM/JI実施支援事業(1/2補助)

- 目的：
我が国民間事業者等が行う京都メカニズムを活用した地球温暖化防止に資する技術の海外への導入・普及・実用化開発事業に必要な経費の一部を補助するもの

- 公募受付期間：
平成19年5月8日(水)～平成19年10月31日(水)17時までの間、原則として随時受け付けます。
- 詳細は、ホームページURL：
http://www.nedo.go.jp/informations/koubo/190508_1/190508_1.html
- お問い合わせ先：
NEDO技術開発機構 京都メカニズム事業推進部
(CDM/JI実施支援事業事務局) 川上、一ノ瀬
TEL: 044-520-5185
(土日祝日を除く9:30-12:00、13:00-17:30)
FAX: 044-520-5187

事務局動静 8月 ～事務局スタッフの動きを報告します～



- | | | | |
|-------|---|--------|--|
| 1日(水) | KES環境機構ヒアリング
事務局会議 | 10日(金) | 京都南部ビジネスサロン
京都市都市計画局交通政策室と打合せ |
| 3日(金) | エコまつりWG運営会議
脱温暖化行動キャンペーンプロジェクトチーム
会議
事務局会議 | 17日(金) | KESCプロジェクト・花脊森づくり打合せ
環境調和型観光プロジェクト打合せ |
| 4日(土) | フォーラム寄付の環境教育施設お披露目 | 23日(木) | 脱温暖化行動キャンペーン・KICSと打合せ
地球温暖化防止研究会 |
| 6日(月) | まちなかプロジェクト会議 | 24日(金) | 京都大学中川研究室訪問
まちなかプロジェクト打合せ |
| | | 25日(土) | KESCプロジェクト・花脊森づくり打合せ
内藤代表訪問 |

Agenda Forum

9月の
ミーティングと
主催行事の予定

- 4日(火) ecotone事務所 エコまつりWG運営会議
- 14日(金) 場所未定 KESCプロジェクト全体会議
- 中旬 場所未定 幹事会



【第3回】小山直美のドイツ報告 ドイツの野生動物その2 ドイツの外來種



ドイツでの外來種への対応について、NABU（ドイツ自然保護連合）やBUND（ドイツ環境保護連合）、ヨーロッパ自然遺産財団ユーロネイチャーのスタッフの方などに話を伺いました。

◇ドイツでの外來種への対応

日本では、今外來種が問題にされています。例えば、40年ほど前からペットとして北米などから輸入されてきたアライグマは、捨てられたり逃げ出したりして日本の森で野生化しました。生態系に悪影響を与える恐れがある、農業被害、生活被害を起こすという理由で、北海道、神奈川などでは、アライグマの根絶を目指して、毎年多くのアライグマを捕殺しています。しかし国内外の外來種の根絶成功事例は、小さな島や、特殊な例を除いてありません。北海道では1996年以降、2億円以上の税金をかけて9000頭を越すアライグマを捕殺してきましたが、担当者の方によると「オリをかけたらいくらでもかかり、数が減っているとは言えない」そうです。

ドイツの森にも、北米から輸入されて野生化したアライグマなど、多くの外來種が棲んでいます。しかし、外來種はあまり問題にされていません。しばしば街中でハンターがアライグマを捕獲することがありますが、そういうときも殺さず、捕まえて森に放すか動物園に連れて行くそうです。

NABUのスタッフの方は、「ドイツには昔から外国からたくさんの動植物が入ってきている。今更どうしようもできない」と話しておられました。既に野生化した外來種については、その存在を認めるというドイツの考え方は、現実的、合理的です。

「日本固有の生態系を守るために、外來種を駆除しなければならない」と言うと、まことしやかに聞こえますが、既に日本の生態系には、多くの外來種が組み込まれています。雑草の9割は外來種ですし、コメや野菜などの殆どの農作物、ダンゴムシや

スズメといった身近な生きものも外來種です。既に日本の自然界では在來種と外來種が混在しており、一体何をもって「日本固有の生態系」と言うのかも、よく分からない状況です。在來魚のウグイがブルーギルの卵をエサとして利用していたり、在來希少種の昆虫クロサワヘリグロハナカミキリが、近年食性を転換して外來樹木のハリエンジュを食べるようになったことから個体数が回復し、今では比較的普通に見られるようになったりと、外來種が在來種に役立っていると言えるケースもあります。しばしば各地の池でブラックバスを駆除するとアメリカザリガニが増えるように、外來種が既に日本の生態系に組み込まれている場合には、その外來種を駆除することで、かえって生態系が混乱する恐れもあります。

現在、日本はアメリカに次ぐ世界第2位の野生動物輸入大国です。今後新たな外來種問題を起こさないように、まずは野生生物の海外からの輸入を厳しく規制することが必要です。その上で、既に日本で野生化してしまった外來種に対しては、根絶したり数を減らすのが現実的に不可能である以上、無用の殺生・税金の無駄遣いで終わってしまう根絶を目指した捕殺ではなく、外來種を農作地や希少種に近付けないようにするための柵の設置などの被害防止対策、被害補償等、現実的な方法で対応していくべきだと思います。

■右写真：

クライルスハイムにある動物園「ワイルドパーク」で撮影したアライグマ。この動物園では、ドイツの森に棲む動物だけが飼育されている。アライグマも、ドイツに普通に棲んでいる動物として扱われていた。



事務局短信

職場のマイパソコンが故障しました。コールセンターに保障期間が1年と聞き、短命さに驚きです。（竹村光世）／蟬の音が遠のき、朝夕の風に、夏の終わりを感じるようになりました。マンション最上階の熱帯地域の住人としては、涼しくなるのは有難いですが、何となく寂しく感じます。さて、秋から、本格的に京都環境コミュニティづくり（KESC）プロジェクトが始まります。KES倶楽部メールニュースで配信予定ですが、9月14日（金）15:00～17:30まで、京エコロジーセンターにて、合同説明会を開催します。事業者の皆さま、ぜひご参加ください。それでは季節の変わり目、皆さまもどうぞお体に気を付けてお過ごしください。（小山直美）／ただ今、広報担当アシスタントの北村龍太さんとともに、フォーラムのホームページのリニューアルを進めています。来月号で、内容一新したホームページのご案内ができるよう鋭意作業中です。ご期待ください。（長谷川吉典）